

## 本授業の主張点

大木町の循環センター「くるるん」の仕組みを佐賀市に取り入れられるかどうか話し合います。その際、佐賀市の住環境の違いに着目させ、どの状況を重要視するのか考えながら、状況に応じて自分の考えをもつ児童の姿をめざします。

## 1 単元名 「ごみとわたしたちの暮らし」

## 2 単元の見目

佐賀市のごみに関わる状況を考慮して、ごみ減量策を考えることができる。

## 3 評価規準【学力デザイン レベル1より】

- 家庭から出るごみ処理の仕方に関心を持ち、調べたことをもとにごみ減量策を意欲的に考えようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 佐賀市のごみ減量のための施策や市民の取り組み状況をもとに、ごみ減量策を考え、適切な言葉で表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 佐賀市のごみ減量のための施策や市民の取り組み状況を、見学、調査をしたり資料を活用したりして具体的に調べることができる。(観察・資料活用 of 技能)
- 佐賀市ではごみ処理に関わる仕事を計画的に行っていること、また、ごみ減量化対策としての分別収集とリサイクルには市民一人一人の協力が欠かせないことを理解することができる。(社会的事象についての知識・理解)

## 4 単元設定の理由

## (1) 児童の実態

本学級の児童は社会科の学習に意欲的に取り組むことができる。既習単元「わたしたちの佐賀市」では商店街の衰退に気付き、まちの最もよい特徴を生かして、空き店舗にどのような店を入れると人が集まるのかを考えた。児童はまちのよい特徴はどんなところか、商店街を見学したり、まちの人へ聞き取り調査をしたりして意欲的に調べ、「おいしい店がたくさんある特徴」と「歴史のある通り、和の雰囲気がある特徴」を見出した。次に、それぞれの特徴において、誰に、どのようなよいことがあるのかを調べ、どちらの特徴を生かすべきか話し合いをさせた。資料を活用し、誰にどのようなよいことがあるのかを調べることはできたが、その後、調べたことをもとにどの特徴が最もよい特徴なのかを比較・検討する場においては、どのように考えてよいのか分からず難しさを感じていた児童もいた。

## (2) 単元の意義

大量生産、大量消費の生活から出されるごみの量は、日本だけで年間4億7000万トン、世界のごみの量は数百億トンになると言われている。ごみが増えると処理費用がかかる、処分しきれなくなるという問題だけでなく、資源をたくさん使うことや環境を破壊することにもつながっていく。ごみ問題は資源・エネルギー問題、環境問題とも関わる地球規模の問題と言える。このような問題を解決するためには、ごみを減らし、いらなくなったものを生かして循環させる「循環型社会」をつくる必要がある。

佐賀市は循環型社会をつくるために、清掃工場やリサイクル工場をもち、市民の理解を得ながら3Rに取り組みやすい社会的な仕組みを整備しようとしている。市民は分別回収に協力し、エコバック使用やトレイ回収に取り組む人々も少しずつ増え、ごみ削減への意識が少しずつ高まってきたように思える。しかし、平成24年度佐賀市のごみの量はおよそ9万トン、処理費用は33億円に上り、最近5年間でほとんどごみの量は変わらない。佐賀市はごみを減らす施策を見直しながら推進する必要があると考える。このような中、児童が佐賀市の状況にあったごみ減量策を考えていくことは、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育むことにつながると

考える。また、状況に応じてメリットやデメリットを考える経験をさせることで、資料を活用して筋道の通った意見を求めていく4年生からの学びにつなげていきたい。

### (3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本單元ではごみ問題について理解を深め、佐賀市の施策や市民の取り組み状況をふまえながら、児童なりのごみ減量策を考えていくことをねらっている。その際、家庭やごみ処理関連施設がどのようにごみを処理しているのか工夫や問題点を把握し、状況をしっかりと見出した上で、比較・検討しながら考えていくことを重視する。そのため、全13時間の単元の過程において以下の点に留意しながら指導を進めていく。

「である／つかむ」過程では、まず、佐賀市のごみの量を伝え、自分たちの生活においてごみが増えると困ることに気付かせる。その上で、市民の立場でごみ減量の実践に取り組んでいる佐賀市エコプラザの職員がビデオメッセージで児童に直接ごみ減量策の検討を呼びかけるという方法でパフォーマンス課題を提示する。課題には、佐賀市が進める事業ではごみあまり減っていないことから、減量に成功している他の自治体の施策を佐賀市に取り入れられないか検討してほしいという内容にする。そうすることにより、佐賀市のごみ減量策を考えるためには、佐賀市の状況を考慮する必要があることに気付かせていく。同時に、パフォーマンスの評価基準をループリックで提示し、単元の見通しをもたせる。

「調べる」過程では、パンフレットや市報などの資料で調べることに加え、家庭のごみ調べやごみ処理関連施設の見学・聞き取り調査の場を設定し、家庭からどのようにしてごみが出され処理されていくのか確かめさせる。そうすることで、ごみを出す立場、収集したり処理したりする立場など様々な立場での工夫や苦勞に気付かせ、ごみ問題に対する切実性やごみ減量への必要性を高めていきたい。また、ごみ減量に成功している福岡県三潴郡大木町の取り組みを調べさせる。行政、市民の取り組み方に佐賀市とどのような違いがあるのか気付かせ、その取り組みを取り入れられないか問いかけていく。佐賀市が現在、大木町の取り組みを取り入れられる状況なのかを考えさせることで、佐賀市の状況を見い出させていく。

「高める」過程では、まず、大木町の取り組みを佐賀市に取り入れられないか話し合う場を設定する。その際、導入に、状況相互の関係が捉えやすいように、状況を見出す際に作製した「状況マップ」に目を向けさせ、大木町の取り組みの中で最も重要となる生ごみ分別に取り組みやすい人たちの状況と取り組みにくい人たちの状況に着目させる。そして、それぞれの状況において誰にとって、どのようなよいことやよくないことがあるのか「立場」と「影響」の観点で分析させた上で、どの状況が最も重要なのかを比較・検討させる。分析したことをもとに状況を比較しやすいように、それぞれ分かりやすく板書し、ていねいに見比べさせ、取り入れられるかどうかの判断につなげさせたい。次に、佐賀市の状況に応じたごみ減量策を話し合う場を設定する。その際、大木町の取り組みを取り入れる場合、どのように状況を整備する必要があるのか、また、取り入れない場合には、どのような手立てを取れば問題を解決できるのか整理して話し合いを進めていく。

「ひらく」過程では、単元全体の学びをふり返らせ、パフォーマンス課題に取り組ませる。その際、単元の初めに提示していたループリックの内容を意識させ、単元のねらいに迫らせる。作成した提案文については、友達と読み合わせ、自他の学びの深まりを実感し、今後の学びへの意欲を高める場になるように留意したい。最後に、「佐賀市におけるごみ減量策」を佐賀市エコプラザに提出して、社会とのつながりを実感させる。また、ごみを減らすために自分ができることを実践していくことがよりよい社会の実現につながることも伝えたい。

## 5 指導計画（全13時間）（ 視点）

過程	時配	主な学習活動（○）と 予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（○）	評価
	1	○ パフォーマンス課題を知る。 ・佐賀市のごみを減らす方法を考えていくんだな。	○ パフォーマンス課題への意欲を高め、身近な問題であることに気付くように、佐賀市のごみの量を伝え、エコプラザの方のビデオメッセージを視聴する場を設ける。	関

であう／つかむ	2	<p style="text-align: center;">パフォーマンス課題</p> <p>わたしたちは、エコプラザの〇〇です。佐賀市役所に協力して、ごみを減らすための仕事をしています。今、佐賀市役所は、「みんなで取り組もう！『家庭系ごみ減量チャレンジ20』」というキャッチフレーズでごみを減らす取り組みを市民にお願いしています。しかし、その取り組みは不十分で、まだまだごみは減っていません。</p> <p>福岡県大木町では「くるるん」の仕組みを取り入れてごみが減っています。佐賀市でも「くるるん」を取り入れてほしいと思っています。</p> <p>附属小の皆さん、ぜひ、佐賀市に「くるるん」を取り入れられるかどうかを考え、佐賀市の状況にあったごみを減らす方法をわたしたちに教えてください。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の評価基準を知る。</li> <li>・現在、佐賀市民がごみをどのように処理しているか、状況を把握したうえで方法を考えるんだな。</li> <li>○ パフォーマンス課題を分析し、問いをつくる。</li> <li>・エコプラザはどのような取り組みをしているのか、見学に行こう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最終的なパフォーマンスへの見通しと単元の学びへの見通しをもつことができるように、教師が作成したルーブリックを提示する。佐賀市のごみ問題に関わる状況を捉える必要があることを知らせる。</li> <li>○ 課題解決のために何を調べる必要があるのか気付くことができるように、減量策を考える場を設ける。</li> <li>○ 学習に見通しをもち自主的に取り組むことができるように、調べる内容と方法を問いかける。</li> </ul>	
調べる	3 4 5 6 7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問いについて調べ活動を行い、分かったことを伝え合う。</li> <li>・エコプラザはごみを減らす知恵を教えてくださいるところなんだな。</li> <li>・リサイクル工場ではもえないごみを手分別している。たいへんだな。</li> <li>・家庭から出るごみは、生ごみが多いんだな。</li> <li>○ 「くるるん」を佐賀市に取り入れられるかを検討する。</li> <li>・今の佐賀市では分別が徹底していないから無理だろうな。まずは、分別を徹底させる方法を考えないと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀市のごみ減量策を知るために、佐賀市が作成したパンフレットや市報をもとに調べ活動の時間を充分設ける。</li> <li>○ ごみ問題を実感し、課題解決のヒントを得られるようにエコプラザ、清掃工場などを見学し、取り組みの工夫や苦労などの話を聞く場を設定する。</li> <li>○ 佐賀市の取り組みや家庭での処理の仕方がわかるように、「家庭系ごみ減量チャレンジ20」を家庭で実践させ、気付いたことを交流する場を設ける。</li> <li>○ 大木町の取り組みを知り課題解決のヒントを得られるように、役場の方から話を聞く場を設定する。</li> <li>○ 「くるるん」を取り入れられるかどうかを考えやすいように、ワークシートや関連資料を振り返り、これまでの学習を想起させる。</li> </ul>	資・知
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀市のごみ問題に関わる状況を見い出す。</li> <li>・分別があまり徹底していない状況だ。</li> <li>・佐賀市にはアパートが多い状況だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀市の状況を見い出すために、大木町のような循環の仕組みを佐賀市に取り入れるとしたら何が必要になるのかを考えさせ、佐賀市全体のごみに関わる状況を表す「状況マップ」を作成する場を設ける。</li> </ul>	資・思
高める	11 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀市に「くるるん」を取り入れられるかどうか話し合う。</li> <li>・一戸建ての家では家庭菜園をする人にとっておいしい野菜を安く作れるからいいね。アパートでは忙しい人にとって分別の手間がかからないことがいいよね。毎日手間がかかるってことは問題だよな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生ごみ分別に取り組みやすい立場、取り組みにくい立場それぞれの状況に着目させ、誰にとってどのようなよいことやよくないことがあるのかといった観点で調べさせる。</li> <li>○ どちらがより重要なのか比較・検討しやすいようによいこととよくないことをそれぞれ「○」と「●」でワークシートに記入するように伝える。</li> <li>○ 「くるるん」を取り入れられるか根拠のある判断ができるように、分析したことをもとに重要視する状況を比較・検討する話し合いの場を設ける。</li> </ul>	資・思
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 討論をする。</li> <li>「佐賀市のごみを減らすための方法を考えよう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀市の状況を意識した話し合いになるように、「くるるん」を取り入れる場合、取り入れない場合に整理し論点を定めたり、前時の話し合いを想起させたりする。</li> </ul>	資・思
	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提案文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 提案文作成に意欲的に取り組むことができるように、佐賀市エコプラザに手紙を書くことを確認し、相手意識と目的意識を明確にする。</li> </ul>	資・思

## 6 本時の指導（本時 11/13）

### (1) 目標

佐賀市のごみ問題に関わる複数の状況の中からどの状況を重要視すべきか比較・検討し、おおき循環センター「くるるん」の仕組みを佐賀市に取り入れることについて自分なりの考えをもち、適切に表現することができる。 【社会的な思考・判断・表現】

### (2) 展開（ 視点）

学習活動（・児童の反応予想）		教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）													
1. 本時のめあてを確認する。		○ 「くるるん」を取り入れられるかどうか考えるためには、どの状況を重要視するか考える必要があることに気付かせるために、大木町の事例を伝える。													
おおき循環センター「くるるん」のしくみを佐賀市に取り入れられるかどうか考えよう。															
2. 複数の状況のうち、どの状況を重要視すべきか、賛成派、反対派ごとの状況を「関わる立場」とそれぞれの立場が受ける「影響」の観点から調べる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみ問題に関わる佐賀市全体の状況が捉えやすいように、状況マップに目を向けさせる。</li> <li>○ 状況をイメージし実感しやすいように、生ごみから堆肥を作る様子が分かる写真や一戸建て、マンションが分布していることを示す資料を提示する。</li> <li>○ 生ごみ分別に取り組みやすい立場、取り組みにくい立場それぞれの状況を観点ごとに調べ、友達との意見交流や発表にも活用しやすいように、観点ごとに記入できるワークシートを準備する。</li> <li>○ 最も重要視すべき状況を考えられるように、状況の中で誰にとってどのようなよいことやよくないことがあるのかを調べさせていく。</li> <li>○ 影響をよいこととよくないことに整理し考えやすいように、よいこと（○）よくないこと（●）と表記させる。</li> </ul>													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">状況</th> <th style="width: 45%;">佐賀市郊外には一戸建ての家が多い状況（A）</th> <th style="width: 45%;">佐賀市中心部にはマンションやアパートがあるという状況（B）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観点</td> <td>○生ごみから堆肥を作り、家庭菜園をしている人</td> <td>○マンションに住む人 ○子育て世代やお年寄り</td> </tr> <tr> <td>だれに</td> <td>○生ごみから堆肥を作ることができる ○ごみが減る</td> <td>●もえるごみが増える ●生ごみはむだになっている</td> </tr> <tr> <td>どんなことがあつていいことやよくないか</td> <td>○栄養豊富な野菜を作ることができる ●手間はかかる</td> <td>○手間がかからない</td> </tr> </tbody> </table>		状況	佐賀市郊外には一戸建ての家が多い状況（A）	佐賀市中心部にはマンションやアパートがあるという状況（B）	観点	○生ごみから堆肥を作り、家庭菜園をしている人	○マンションに住む人 ○子育て世代やお年寄り	だれに	○生ごみから堆肥を作ることができる ○ごみが減る	●もえるごみが増える ●生ごみはむだになっている	どんなことがあつていいことやよくないか	○栄養豊富な野菜を作ることができる ●手間はかかる	○手間がかからない	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 複数の状況を、関わりのある立場と影響の観点で調べることができるか。【観察】（ワークシート、発言） <ul style="list-style-type: none"> <li>A 関わりのある立場と影響の観点で表に記入し、自分なりの理由をもって、状況相互を比較している。</li> <li>B 状況に関わる立場と影響の観点で表に記述している。→比較するように促し、その理由を問いかける。</li> <li>C 状況に関わる立場が影響のどちらかの観点でのみ記述している。→状況マップを見せ、立場や影響に目を向けるように促す。</li> </ul> </li> </ul>	
状況	佐賀市郊外には一戸建ての家が多い状況（A）	佐賀市中心部にはマンションやアパートがあるという状況（B）													
観点	○生ごみから堆肥を作り、家庭菜園をしている人	○マンションに住む人 ○子育て世代やお年寄り													
だれに	○生ごみから堆肥を作ることができる ○ごみが減る	●もえるごみが増える ●生ごみはむだになっている													
どんなことがあつていいことやよくないか	○栄養豊富な野菜を作ることができる ●手間はかかる	○手間がかからない													
3. 調べたことをもとに、重要視する状況について話し合う。 ・健康な野菜を作るのはいいことだけど、お年寄りにとって手間がかかることは問題だと思うからBの方が重要です。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ どちらの状況を重要視すべきか比較・検討しやすいように、「環境保護」「状況におかれている人の数」といった観点を与え、話し合いの論点を明確にしていく。</li> <li>○ 現実の状況に即した意見がもてるように、今後、状況がどのように変化するか考えるように伝える。</li> </ul>													
4. 重要視する状況に応じて、「くるるん」導入についての考えをまとめる。 ・佐賀市では生ごみからたい肥を作ることに興味をもつ人が増えています。「くるるん」を取り入れて佐賀市全体で生ごみを生かしたらいいと思います。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 佐賀市のごみ減量策を考えることにつながられるように、「くるるん」を取り入れられると判断した児童にはどのように状況を整備する必要があるのか問いかける。また、取り入れられないと判断した児童にはどのような手立てを取れば取り入れられるのか考えるように伝える。</li> </ul>													
5. 本時のふり返り ・子育て中で忙しい人のために手立てまで考えているところがすごいな。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学びをふり返り、次時の討論に向けて意欲を喚起するために、「くるるん」導入について互いの考えを伝え合い認め合う場を設ける。</li> </ul>													